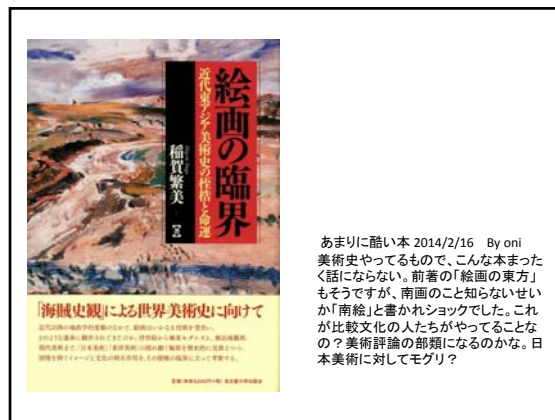




あまりに酷い本 2014/2/16 By oni
美術史やってるもので、こんな本まったく話にならない。前者の「絵画の東方」もそうですが、南画のこと知らないせいか「南絵」と書かれショックでした。これが比較文化の人たちがやってることなの？美術評論の部類になるのかな。日本美術に対してモグリ？

・ 西側世界による世界認識の拡大

1. オリエンタリズム orientalism 東方趣味

・ ca.1800-1900...

2. ジャポニスム japonisme 日本趣味

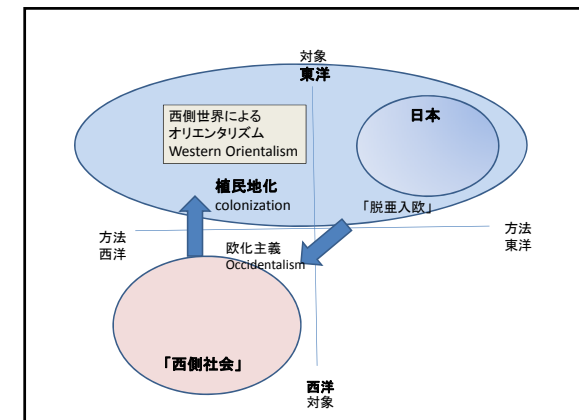
・ ca.1860-1905...

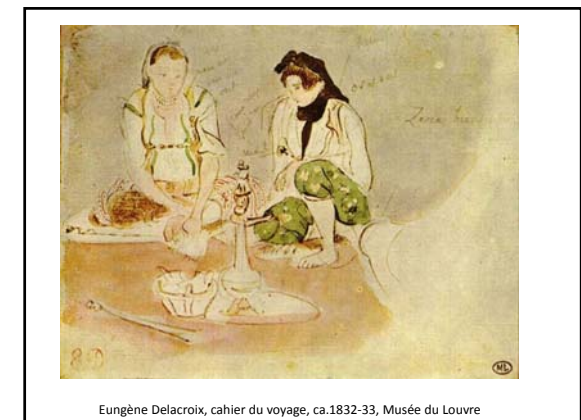
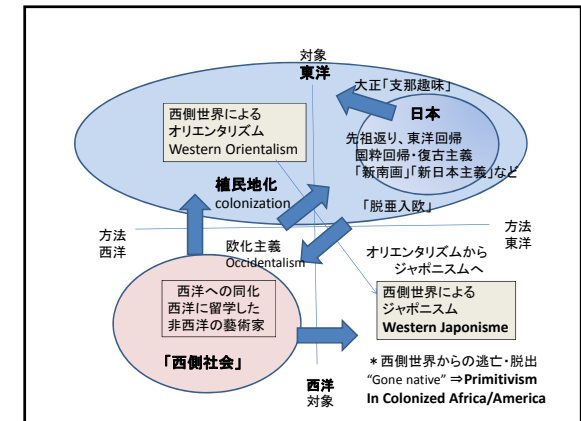
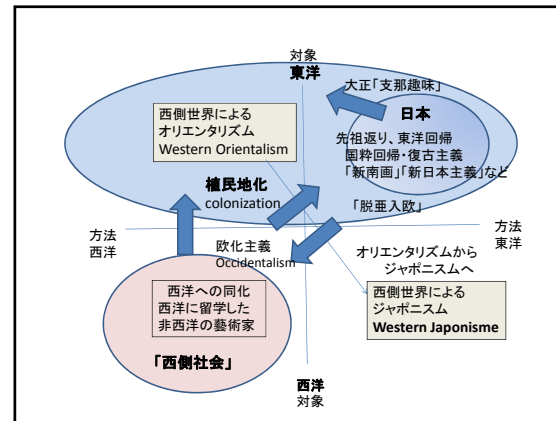
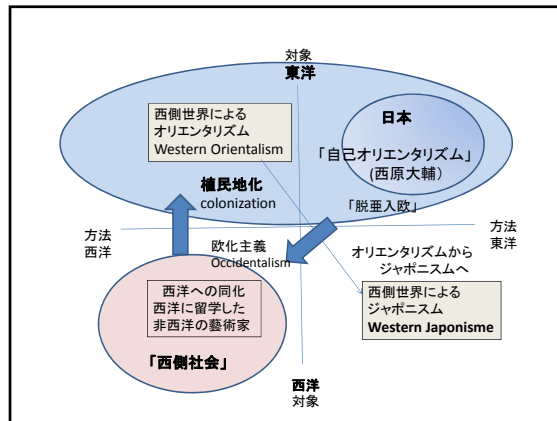
3. プリミティヴィズム primitivism 未開主義

ca.1906-1987?

・ 植民地絵画 peinture coloniale

ca.1870s-1945-1960—Post-colonial...





・藤島武二の証言

Eugène Delacroix
1798-1863

Alexandre Decamps
1803-1860

Prosper Marilhat
1811-1847

Eugène Fromentin
1820-1876

『美術新報』一九二四年三月号
『藝術のエスプリ』中央公論美術出版
一九八二年、二四九―二五〇頁

フランスがアルジェリアを征服した時に、その頃の画家が、盛んに彼の地に旅して、アルジェリアの風景や風俗を描くのが、その頃の流行のようになっていて、彼の地の風景、風俗、戦争等を題材とした有名な画家が続々と輩出しています。即ちドラクロワ、マリヤ、フロマンタン、ギヨメ等、盛んに東洋趣味を鼓吹して、当時の仏國画壇に、一種のモードを作った傾向が見えます。熱帯地方の雄大な光線や色彩といったようなものが、当時の画壇に、大なる刺激を与えたのが見てとれます。朝鮮は、わが國と併合したので、もちろんアルジェリアの例とは異なっていますが、とにかく、我が領土に帰したのでありますから、種々の方面から、研究したり、開拓したりすることの必要なと同じように、藝術の方面から、この際大いに注目すべきものであらうと思います。



ガブリエル・ドウカン 《勅令の朗読》 水彩

Alexandre-Gabriel Decamps, *The Reading of a Firman*
30.5 x 45.2 cm, Watercolour on paper, Wallace Collection, London



Prosper Marilhat: Ruins of the Mosque of the Caliph El Haken, Cairo, ca.1840

プロスベロ・マリヤ 《カイロ、エル・ハーキムのモスクの廃墟》 1840年頃



Eugène Fromentin, *La Chasse au Heron, Algérie, 1865*. oil on canvas
99cmx 142cm, Musée Condé

ウジェヌ・フロマンタン 《アオサギ狩》 一八六五年



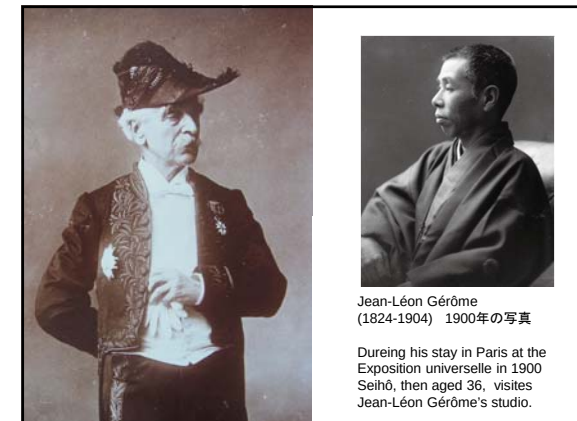
Jean-Léon Gérôme (1824 – 1904). *Le charmeur de serpent*, ca. 1880
83,8 sur 122,1 cm, Sterling and Francine Clark Art Institute

ジャン・レオン・ジェローム 《蛇つかい》 一八八〇年頃



Jean-Léon Gérôme, *La Danse de l'Almée*, 1863, huile sur toile, Dayton Art Institute

ジャン・レオン・ジェローム 《アルメの踊り》 一八六三年





竹内栖鳳 Takeuchi Seihō《獅子図》Lion 棲⇒栖
明治34(1901)年、三重県立美術館
From this piece, Seihō modifies his signature with the mark of 'West'.



竹内栖鳳 《大獅子図》1902年
三重県立美術館



竹内栖鳳《蹴合》
1926(大正15)年
絹本・彩色



竹内栖鳳《蹴合》
1926(大正15)年
絹本・彩色



青木繁 Aoki Shigeru 1882-1911
大穴牟知命(おこなむちのみこと)(1905年)(石橋美術館)
75.5x127.5cm * 藤島武二洋行出発の年(38歳) 帰国は1910年、43歳



青木繁 Aoki Shigeru 1882-1911
大穴牟知命(おこなむちのみこと)
(1905年)(石橋美術館)
75.5x127.5cm

Théodule Ribot
テオデュール・リボ
1823-1890

Le Bon Samaritain
《よきサマリタン》
98- 131 cm
Pau, Musée des Beaux-Arts





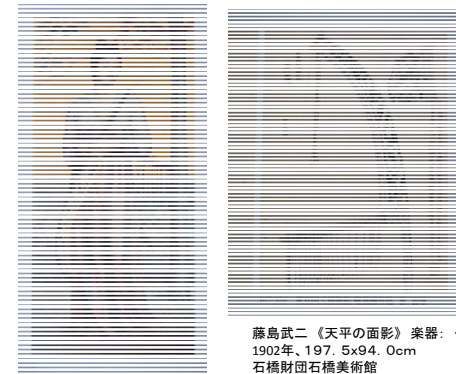
黒田清輝 《湖畔》 Au bord de la lac, 1897年
69 × 84.7cm | 油彩・画布 | 東京国立博物館

ウジェーヌ・ドラクロワ
《アルジェの女たち》 1834年
“Nativized orientalism”
Norman Bryson



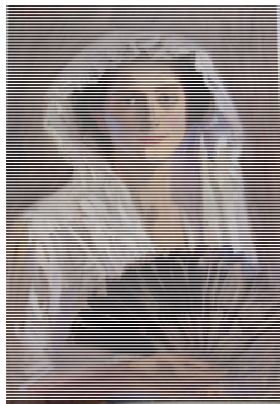
「自己殖民地化」
“Domestication”
Peter Sloterdijk (1947-)
“Menshenpark2 人間動物園”

黒田清輝 《湖畔》 Au bord de la lac, 1897年
69 × 84.7cm 油彩・画布
東京国立博物館



『画稿集』
ブリヂストン美術館

藤島武二 《天平の面影》 楽器：くこ
1902年、197. 5x94. 0cm
石橋財団石橋美術館
* 台風の翌朝の講演会...



藤島武二 1867-1943
官費欧州留学
1905-1910 38-43歳

藤島武二 《黒扇》 1908-09年
欧州滞在中の作品
63. 7x42. 4cm
ブリヂストン美術館



1902年 大分県立美術館蔵、複製品... 石橋財団蔵、石橋美術館蔵



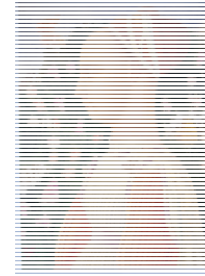
藤島武二 《句い》
67. 8x74. 2
東京国立近代美術館
一九一五年



岸田劉生 1891-1929
《照子像》1920年
48.4x33.8cm 水彩+紙
郡山市立美術館



藤島武二 《芳蕙》1926年、63.3x51.0cm、個人蔵
モデルは「お葉」こと、佐々木カ子ヨ（1904-1980）



藤島武二 ビサネロ Pisanello, Ginevra D'Este
の模写、42.0x32.0cm 個人蔵

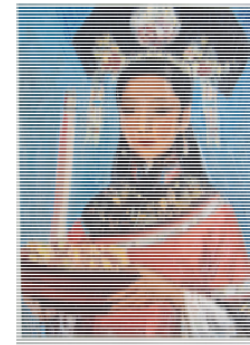


ピエロ・デッラ・フランチェスカ
「ウルビーノ公爵夫妻の肖像」
フェデリゴ・ダ・モンテフェルトロ。

藤島武二 《東洋振り》
1924 Orientalism
63.7x44.0cm
個人蔵



琉球の女 1936年38.3x28.0cm
パステル・紙 「名護愛子」
石橋財団石橋美術館



藤島武二
《麻姑献壽》 1937年
54.6x33.6cm
個人蔵



《花籠》1913年、63. 0x41. 0cm
京都国立近代美術館 「日韓併合」

西条武二 《西条武二》1913年 京都国立近代美術館蔵

この花束のなかに豊かに華やかな、
楽しい色合を見出さうとする人
は失望するであらう。しかしながら、
ささやかにつましく切々たる
あはれさは、さながらに霜にうつろふ
一茎の野花の如く、またその根もとに
枯れ声を立てたきざりすの歌とも
聞きなされる。

佐藤春夫

「朝鮮の詩人等を内地の詩壇に迎
へんとする辞」『乳色の雲』(一九四〇)

《花籠》1913年、63. 0x41. 0cm
京都国立近代美術館 「日韓併合」



西条武二 《西条武二》1913年 京都国立近代美術館蔵

この花束のなかに豊かに華やかな、
楽しい色合を見出さうとする人
は失望するであらう。しかしながら、
ささやかにつましく切々たる
あはれさは、さながらに霜にうつろふ
一茎の野花の如く、またその根もとに
枯れ声を立てたきざりすの歌とも
聞きなされる。

佐藤春夫

「朝鮮の詩人等を内地の詩壇に迎
へんとする辞」『乳色の雲』(一九四〇)



金素雲(編訳)『朝鮮詩集』(前期 9月12日刊・中期 10月25日)興風館、1943年

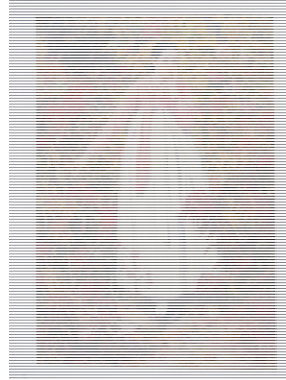


藤島武二 《金剛幻想》ca.1942-3



金素雲(編訳)『朝鮮詩集』
序文: 島崎藤村・佐藤春夫
巻頭原色口絵
・前期 9月12日刊
・中期 10月25日
興風館、1943年

藤島武二、1943年3月19日死去



梶山 季之(かじやまとしゆき、
1930年 - 1975、朝鮮・移民・原爆
とも言われ、日韓併合期の朝鮮
を題材にした「族譜」「李朝残影」

児島虎次郎 1881-1929

《秋》 L'Automne
1920年
200. 0x136. 0cm
Centre Georges Pompidou, Paris



児島虎二郎 1881-1929

《和服を着たベルギーの少女》
1911年
116. 0x89. 0cm
大原美術館、倉敷



児島虎次郎 《西湖の画舫》1921年、161. 0x197. 0cm 成羽美術館
舞台は実際には南京、Vers l'automne à Nanking, Salon de la Société Nationale des Beaux-Arts, avril, 1922 出品（日本人一派、スパイ容疑）



マティス、《トルコ椅子のオダリスク》1926-7
パリ市立美術館



児島虎次郎 1881-1929
《花卓の少女》1926年
1116. 0x90. 0cm
成羽美術館、高梁市



ルノワール《集をもつ少女》
1880、Clark Art Institut



矢田清四郎 1900-1977
《支那服の女》1927年
144. 0x95. 8cm
島県立美術館



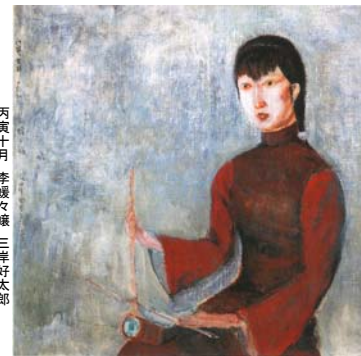
三岸好太郎
1903-1934
《支那服の女》
1926、42.4x42.5cm
北海道立三岸好太郎
記念館

丙寅十月 李媛々嬢 三岸好太郎



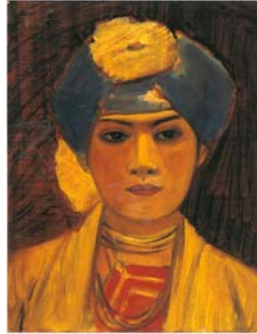
丙寅十月 李媛々嬢 三岸好太郎

Man Ray 1890-1967



三岸好太郎1903-1934《支那服の女》1926、42.4x42.5cm 北海道立三岸好太郎記念館





藤島武二 《台湾の女》
1935年頃 41.0x31.5cm
メナード美術館
ツォウ族の女性
台湾美術展審査員



藤島武二 《台南聖廟》 1933年、37.9x55.7cm
宮崎県立美術館



台南孔子廟で制作中の藤島武二、1933-35年頃



制作中の作品は、
《聖廟(台南)》1933年
東京国立近代美術館
か？それにきわめて近い
角度からの連作のひとつ



藤島武二 《旭光 新高山》1935 石橋財団石橋美術館 玉山Yù Shān, Yü Shan)、
3,952m Fujishima Takeji, Sunrise on Yushan, Ishibashi Museum of Art



楊三郎 Yang San-lang 1908-1995
台湾出身 京都市立美術工芸学校
関西美術院1928年卒業
1932渡仏、サロン・ドートンヌ参加・
入選、1934年帰台、
扇持婦人像 1934年
130x81cm 油彩・画布
楊三郎美術館蔵



陳進 1907-1998
台湾、新竹生まれ、台北第3高等女学校
卒業、東京女子美術学校日本画科入学
1927年台展初入選

《アコーディオン》手風琴 1935年
180x170cm 着色、絹

第9回台湾展覧会入選作
モデルは姉の陳新
台北市立美術館



陳進 Chen Chin 1907-1998 《サンティモン社の女》 1936年
The Women of Shantimen Area, 147. 8x198. 7m 着色、絹、福岡アジア美術館
1936年文展 監査展入選作 「郷土色・郷土美」 パイワン族に取材



土田 麦僊(つちだばくせん、1887年(明治20年)-1936年
《『平牀』 昭和8年 1933年 京都市美術館蔵



土田 麦僊(つちだばくせん、1887年(明治20年)-1936年
《『平牀』 昭和8年 1933年 京都市美術館蔵

Édouard Manet
(1832-1883)
Olympia,
Oil on canvas
130.5 cm × 190 cm
Musée d'Orsay, Paris



前田青邨 (1885-1977) 《鑑画》 1936、179. 0x222. 0cm
京都市立美術館 1934年日満連合絵画展審査員としての渡満体験 チューバオ旗袍
満洲貴婦人の視線の先には、不可視の「日本画」。視線の交錯(鈴木慈子氏)。
「見る」主体としての満洲人貴婦人と、それにそこに視線を注ぐ日本人画家と。



安井曾太郎 Yasui Sotaro (1888-1955)

安井曾太郎 《金蓉》 1934年

Yasui Sotaro Portrait of a Woman in
Chinese Dress 1934



安井曾太郎
モデルは小田切峯子(1903-1973)
父は、上海総領事などを歴任した、
万寿之助

《金碧》1934年
油彩・カンヴァス
96. 5x74. 5cm、2005年に修復
東京国立近代美術館蔵

- ・「植民地帝国」日本
- ・台湾:「領有」1896年—1945年 下関条約
- ・「関東州租借」1905年: ポーツマス条約
- ・朝鮮:「併合」1910年—1945年
- ・「柳条湖事件」⇒「満洲事変」 1931年9月18日
- ・「満洲国建国宣言」 1932年3月1日
- ・熱河作戦 1933年2月23日—5月30日...塘沽協定
- ・溥儀、満洲国皇帝即位 1934年3月1日
- ・「盧溝橋事件」1937年7月7日⇒「七七事変」「日華事変」
- ・日本敗戦 「1945年8月15日」



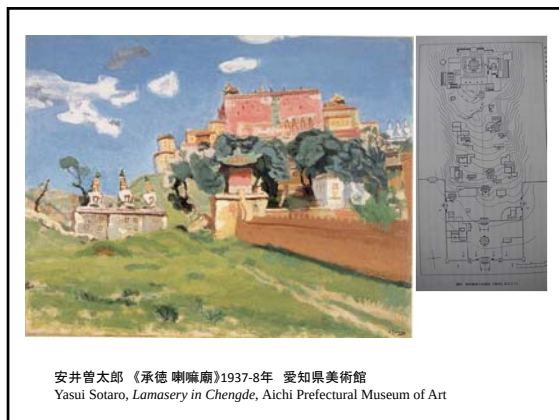
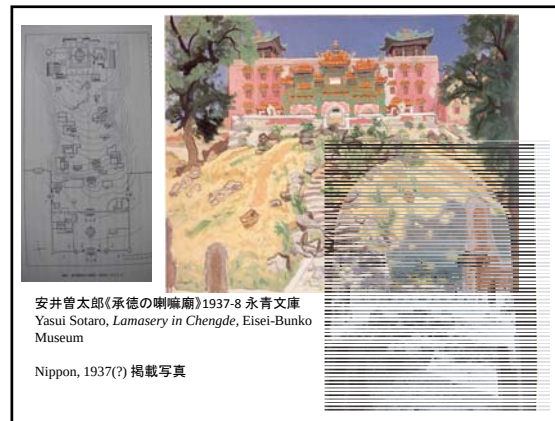
承德 喇嘛廟 昭和8年(1935)10月5日 大阪朝日新聞付録
Rhama Buddhist temple in Chengde, Graphic Report of Rehe Expedition,
Supplement, Osaka Daily News Oct. 05, 1935.

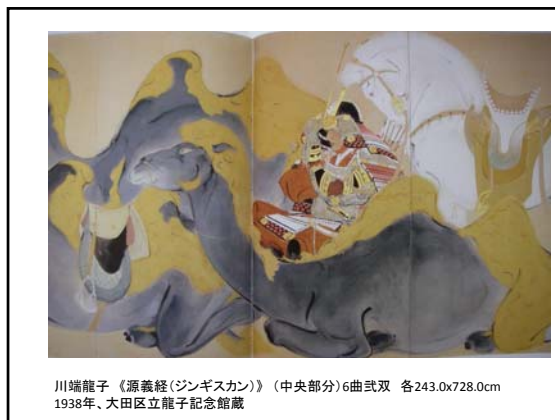
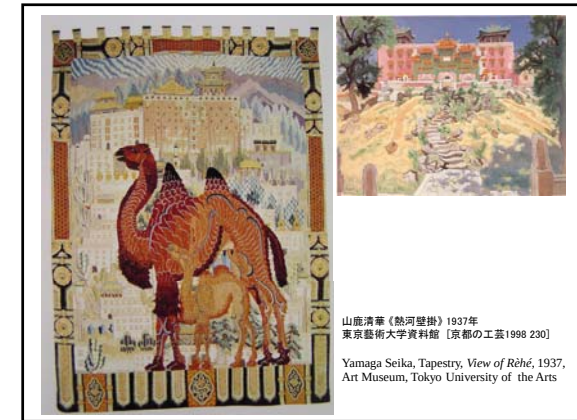


普寧寺 Puningshi 木造千手観音 昭和8年(1935)10月5日 大阪朝日新聞付録
Kwanin with one thousand arms, Sahasrabhuja arya avalokitezvara



Nippon, 1937 ?掲載写真







新京(現:長春) 大同広場に完成した第二庁舎、1934年1月20日撮影
[毎日新聞 満洲国の幻影2010:74]



新首都となった新京で、関東軍司令部と並んで立てられた豪壮な建物は
国務院の新庁舎だった。写真は完成直後の国務院 ca.1936



新京(長春) 満洲国国務院大広間壁画 出典:武藤富男『私と満洲国』文藝春秋 1988



岡田三郎助による満洲国国務院庁舎の大壁画《民族協和図》
1936年 所在不明。



絵はがき「民族協和図」
を利用した絵はがき「五
族協和」

熱河作戦ポスター (1933年)

『満洲国のビジュアル・メディ
ア』貴志俊彦 吉川弘文館
2010年より



Collaboration of Races (1937)

『満洲国のビジュアル・メディ
ア』貴志俊彦 吉川弘文館
2010年より



和田三造 (1883-1967)1909年より渡欧、15年帰国。21年朝鮮総督府壁画
《興亜曼荼羅》1940年 80. 8x116. 2cm、東京国立近代美術館
Wada Sanzo, Mandala for Asian Prosperity, 1940



写真提供：作家遺族

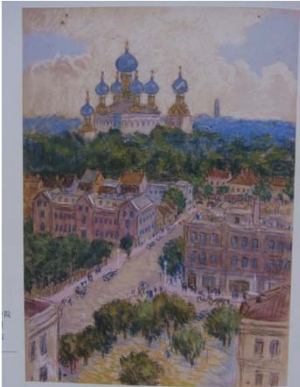
第4回 満洲国展 会場展示風景の写真<1940>
右に、赤羽末吉の特選受賞作《承德 福壽廟 瑠璃塔》が見える。
[官展2014:127参考図]



劉栄楓 Liu Rong-Feng 1892-? 満洲国展に1回より4回まで無鑑査出品
《望郷》年代不詳、126.5x159.5cm (部分) 国際善隣協会 [官展2014:135]



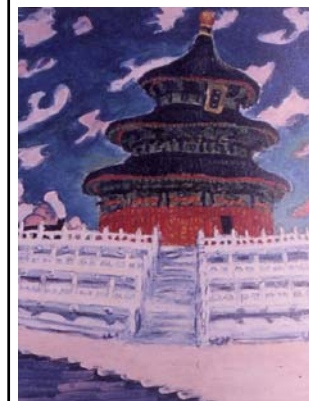
劉栄楓 Liu Rong-Feng 1892-? 満洲国展に1回より4回まで無鑑査出品
《満洲の収穫》1930年、91.2x116.8cm 星野画廊 [官展2014:136]



矢崎千代二 1872-1947
《ハルビン中央寺院》1938年
パステル
市街中央の聖ニコライ寺院
横須賀美術館



矢崎千代二(1872-1947) 《建国忠霊廟》1941年 Yazaki Chiyoji
当時の原色複製より撮影、出典確認不能、作品所在不明



《天壇》制作中の梅原龍三郎

梅原龍三郎(1898-1986)
《雲中天壇》1939年 京都国立近代美術館
Umehara Ryuzaburo
The Temple of the Heaven, 1939,
The National Museum of Modern Art,
Kyoto



梅原龍三郎《長安街》1940 東京国立近代美術館
Umehara Ryuzaburo, *Chang'an Avenue*, The National Museum of Modern Art, Tokyo



梅原龍三郎《紫禁城》1940年
油彩・岩絵の具・筒状合紙
永青文庫
【絵面の成熟 1994 64】

Umehara Ryuzaburo,
The Forbidden City of Beijing, 1940,
oil and Japanese pigments on paper,
Eisei-Bunko Museum



梅原龍三郎《北京秋天》1942年
東京国立近代美術館
Umehara Ryuzaburo,
Autumn in Beijing, 1942,
The National Museum of Modern Art,
Tokyo



安井曾太郎《初秋の北京》郡山市立美術館 1944(昭和19)年
Yasui Sotaro, *Beijing in the Early Autumn*, Koriyama City Museum of Art

これらの女達も頭脳は空虚であるが、感情にも心理にも分裂しない以前の、言はば純粋なエスルギーと言った風なものを體中一杯に蓄え、すいふめ眼差しである。ある女は、自分の心臓のやうなチユウリンの花を握つてゐるが、他の女たちもこれに類してものしかめてゐるが、あなない。拱（まねい）大きな手は、何を仕出さずかわからぬ。だが社会権威の為に決して働くまいと決心してゐる様子である。」「これらはほとんど梅原氏の自画像ではあるまいか」
小林秀雄 梅原龍三郎 1946年
（敗戦後になつて発表）

梅原龍三郎 1888-1986
《姑娘とチューリップ》 1942年
73. 1x40. 1cm
東京国立近代美術館



藤田嗣治 1886-1968

《力士と病児》 1934年
116. 8x91. 0cm
大日本印刷株式会社

北京滞在中の制作



大連における藤田嗣治 1935年 稲賀襄旧蔵写真 左上に藤田自筆署名



左から 藤田嗣治、田口掬汀、石井柏亭、 満洲日報 1935年4月23日



藤田嗣治 (レオナルド・フジタ) Leonard (Tsuguharu) Foujita
明治19年(1886)~昭和43年(1968)
《哈爾哈(ハルハ)河畔之戰闘》③《ハルハ河畔之戰闘》1941
140 × 448cm、
第二回聖戦美術展
1942
148 × 300cm



藤田嗣治 《戦車に獅咆つく》水彩 関東軍報道部 監修『北方画信』
陸軍美術協会出版部、初版17000部、1943年7月 現地聞き書きによる復元図



井上幸《完勝関東軍》『北方画信』1943年7月



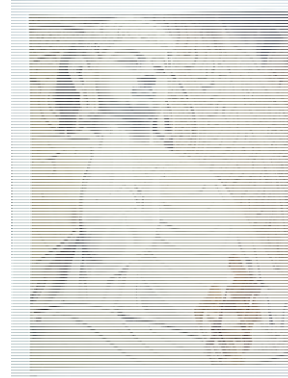
高井貞二《凝視》『北方画信』1943年7月



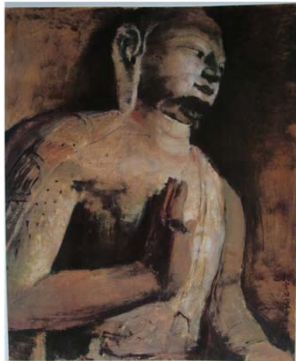
山田貞寛 《黒竜江の凍結》 『北方画信』 1943年7月



熊岡正夫 《家郷を拝す》 『北方画信』 1943年7月



川端龍子 《洛陽攻略》 1945年
253. 0x185. 0cm
東京国立近代美術館、無期限貸与



須田国太郎 1891-1961
雲崗石窟
1942年 現地制作
満洲国美術展覧会審査員



須田国太郎 1891-1961 雲崗石窟 1942年 現地制作
満洲国美術展覧会審査員



須田国太郎 1891-1961 雲崗水無河 1942年 現地制作 50.0x60.0cm 個人蔵
満洲国美術展覧会審査員



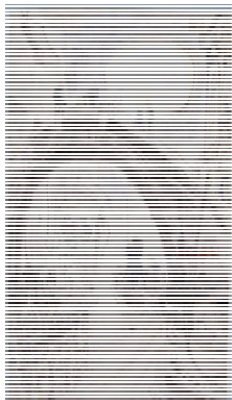
浅井閑右衛門《上海バンド》1945年 油彩・厚紙、34.1x66.7cm 個人蔵
住居としていたブロードウェイ・マンション(1934年落成)714号室から、南方向のバンドを臨む。画面奥が黄浦江、眼下が呉淞江。鉄の橋は外白渡橋Garden Bridge(1908年)[アジア・イメージ2-37] 天衣無縫、異端の画家は「外地に棲む敗戦国民の屈辱も、痛みも、まるで外界のことには無関心のごとく」「超然」としてスケッチの日課に余念がなかった、という。島崎藤村「上海の閑右衛門さん」『浅井閑右衛門追憶』 非売品、1974年



浅井閑右衛門「一九〇一、一九八三
《蘇州風景》一九四一年 61.0x2.7cm
横須賀美術館 中国国民党政府興亜院依頼による滞在
舞台は杭州と推定される



矢崎千代二《中国風景》(杭州?) 制作年代不詳 33.5x44.5cm
横須賀美術館 [官展2014:133]



竹内栖鳳撮影の写真 1920-21年
海に見える社美術館蔵
、[アジア・イメージ4-45]

浅井閑右衛門
《古蘇城外月一照》1945年
墨・岩絵具、紙 94.6x52.7cm
横須賀美術館



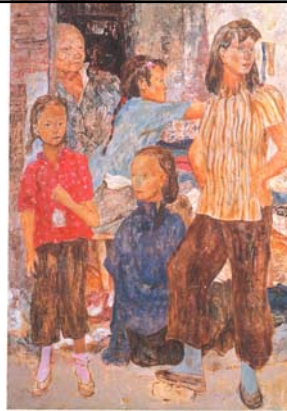
竹内栖鳳《南支風色》1926年 76.4x84.7cm 前田育徳会



烏海青児 <1902-1972>《蘇州風景》1939年 80.6x116.8cm
平塚市美術館



岡田謙三 《ラマ寺》1941 横浜美術館
Okada Kenzo, *Lamasery*, 1941, Yokohama Museum of Art



岡田謙三 1902-1982
《満人の家族》1942年
129.0x90.1cm
横浜美術館寄贈
荻須高徳と写生旅行



猪熊弦一郎 1902-1993
《漢口(復興作業)》
『中支戦跡画集』のうち
1942年 31.5x22.1cm



猪熊弦一郎 1902-1993 藤島武二に師事 《長江埠の子どもたち》
1941年130.5x194.0cm 丸亀市猪熊弦一郎美術館



清水登之トシ 1887-1945
《難民群》1941年
162.1x130.3cm
栃木県立美術館



橋本閑雪 1883-1945 《流民》Refugees wandering (下絵) esquisse
昭和14(1939)年、140x181cm京都市美術館 [近代東アジア・イメージ2009: 6-40]



藤田嗣治 1886-1968《サイパン島同胞 臣節を完うす》1945年(藤田58歳)
181.0x362.0cm、陸軍美術展、陸軍作戦記録画 東京国立近代美術館
聖戦美術の重鎮・藤島武二が軍の意向を伝え、「真に迫り過ぎて、戦意の高揚にならないという...」「戦争ごっこではあるまいし、悲惨でない戦争などありますか」藤田はいつになく激しい言葉を口にして、藤島を睨みつけた...
森田成男 もりた・なるお (1926-)『芸術と戦争 従軍作家・画家たちの戦中と戦後』産経新聞出版、2007



蒋兆和 (1904-1986)
Jiang3 Zhao4 he2
『流民図』Homeless People
Wandering under the War,1943年



藤島武二《東海旭光》1932年 65.2x90.9cm プリヂストン美術館
「偉大なる習作」壁画のためのエスキス 崇高なる東洋の栄光



山崎隆(1916-2004) 風景(戦地の印象) 1942年 167. 5x360. 0cm 四曲一隻
京都国立近代美術館 (部分) 1937年応召、中国北部で負傷復員。



清水登之 1887-1945《南方地下資源》1943年 140.5x288. 5cm 栃木県立美術館
1907年渡米、25年欧州滞在ののち、27年帰国。39年聖戦美術審査員
1941年、奉天経由で撫順炭鉱、露天掘りを視察。
本作は、1942年4月からの南方視察の折、マレー半島の錫の露天掘りに取材。
「資源」という名の墓場あるいは、先取りされた「大東亜共栄圏の墓碑」。



清水登之《昭南島宣伝班屋上展望》『南方画信』1942年9月刊



伊原宇三郎 《サイゴン市の一角 軍港地区を臨む》『南方画信』1942年9月



寺内萬次郎 中村研一 藤田嗣治 鶴田吾郎 田村孝之介
小磯良平 清水登之 宮本三郎
『南方派遣画家』昭和17年 撮影場所不記載『南方画信』1942年9月



中村研一《マレーの子供》
鶴田吾郎《マレーの印度婦人》
中村研一(1895-1967)46歳、鶴田吾郎(1890-1965)42歳
『南方画信』1942年9月



植民地絵画としての
オリエンタリズム絵画

その完成形態の母胎にして
培養器としての偽「満洲国」

藝術の総動員体制組み込みという
制度的成熟あるいは極限

国家目的＝戦争遂行の破綻
流民の表象・表象絵画の終焉

大東亜共栄圏の夢想の果て
欧化Occidentalizationと
自己本位化 Self Orientalization
との交錯とその怪格

絵画の臨界あるいは臨界の絵画

恩地孝四郎 1891-1955
《白室 (蘇州所見)》1940年
木版多色摺/紙
84.4x60.0cm 千葉市美術館